

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	地域まちづくり推進事業			事業番号	29-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	吉田 俊	

計 画 (Plan)					
総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	8	自然と調和した住みよいまちづくり	
		施策展開の方向	13	愛着のある美しいまちをつくる	
		施策	29	快適で親しみのある地域づくりの推進	
予算事業名	地域まちづくり推進事業				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成22年度	～	終了年度	
関連法令等	伊勢原市地域まちづくり推進条例				
国・県の計画等			計画期間		
関連個別計画	伊勢原市都市マスタープラン		計画期間	平成28年度～令和17年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	・今後の人口減少・少子高齢社会を見通した中で、地域活力やコミュニティなどの維持向上のために、身近な暮らしの場となる地域では、その地域の課題やニーズに合わせた様々な取組が模索されている。伊勢原のまちの魅力を高め、活力を維持していくためには、これらの取組を積極的に評価するとともに、地域の特性を發揮し、その価値を高めていく地域まちづくりを推進していくことが必要である。				
目的 (何をどうしたいのか)	地域の特性を生かした良好なまちづくりを推進するため、地元まちづくり組織の調査研究活動を支援するとともに、地域や大学との協働によるまちづくりを推進します。 また、住居表示実施地区の街区表示板等の更新を進め、快適な地域づくりを推進します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民等				
事業内容 (手段、手法など)	・地域まちづくり団体の取組支援による、地域主体のまちづくり活動の展開とともに、専門性や先駆性を生かした、大学等との市民協働事業を実施します。				
事業行程	項目	年度			
		令和3年度	令和4年度		
	地域まちづくり団体の取組支援	取組支援 地域まちづくりグループの登録	取組支援 地域まちづくりグループの登録		
	大学等との連携による市民協働事業	実施	実施		
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			令和3年度	令和4年度	
	地域と協働のまちづくり会議等の出席者数(年間)	100人 (令和2年度)	800人	800人	



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	地域まちづくりを推進していくために、地域の実情やまちづくりの課題を把握しながら、地域まちづくり団体の取組支援を中心に進めていきます。 また、今後のまちづくりを取り巻く環境の変化に対応した取組を推進していくために、専門性や先駆性を生かした大学等の市民協働事業を継続的に進めます。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	地域まちづくり団体の取組支援	取組支援	
	大学等との連携による市民協働事業	協働事業実施見送り	
実施した取組の内容	・愛甲石田駅南口周辺整備研究会活動の支援など、地域の課題に対応したまちづくりの取組を推進しました。 ・伊勢原市西部地区土地利用研究会において、「景観を生かしたまちづくり」をテーマとした取組を推進しました。また、東京農業大学と連携し、学生ならではのアイデアを生かした散策路整備の取組を行いました。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度
	地域と協働のまちづくり会議等の出席者数(年間)	100人 (令和2年度)	令和3年度 255人 令和4年度

コスト	年度		令和3年度 実績				令和4年度 実績				
	事業費合計 (a)		7	千円							千円
	内訳	国県支出金 ①	0	千円							千円
		地方債 ②	0	千円							千円
		その他特財 ③	0	千円							千円
		一般財源 (a)-①-②-③	7	千円						0	千円
	国県支出金の内容										
	その他特財の内容	受益者負担	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		前回の改定時期						
		その他									
	人件費	正規職員	0.2	人	1,636	千円		人			千円
		その他の職員		人	0	千円		人			千円
		人件費合計 (b)	0.2	人	1,636	千円		人			千円
	トータルコスト (a)+(b)		1,643	千円						0	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位					
			対象数	101,381	人						
総事業費 / 対象数		16	円								

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症拡大防止の配慮から、移動等の制約が続く中、オンラインによる意見交換や大学生のフィールドワーク支援などを中心に取組を実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市事業内容等	地域まちづくりは、地域の現状や課題等に応じて、取り組むことが重要です。それぞれの地域特性を踏まえた独自性の高いまちづくりが必要のため、一律には比較できないと考えます。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	市民ニーズが多様化する中で、市民のまちづくりに対する意識は高まっており、市民協働事業制度など、市民等により地域のまちづくりを推進する仕組みは、地域のニーズに合った実践的なまちづくりに有効です。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	対面による意見交換に一定の制限がある中、大学と地域のオンラインによる意見交換は、新しい生活様式を踏まえた取組であり、多様な主体との連携を効率的に深めることができました。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	地域まちづくりを推進するためには、地域の実情を踏まえ、様々な機会を通じて地域のまちづくり活動を支援するとともに、適切なまちづくり手法を検討していく必要があります。
令和4年度取組方針		地域まちづくりを推進していくために、地域の実情やまちづくりの課題を把握しながら、地域まちづくり団体の取組支援を中心に進めていきます。 また、今後のまちづくりを取り巻く環境の変化に対応した取組を推進していくために、専門性や先駆性を生かした大学等の市民協働事業を継続的に進めます。		
所管部長による総評		地域住民が地区の特性を十分に把握・理解した上で、地域の将来像を共有し、まちの魅力づくりなどを進められることは、今後の地域まちづくりのあるべき姿と考えます。 引き続き、多様な主体による相互の連携や行政との協働によるまちづくりを推進することが大切です。		